



茨城県の経済情勢報告

令和2年10月28日
財務省関東財務局水戸財務事務所


本件に関するお問い合わせ先

水戸財務事務所財務課

電話 029-221-3180

1. 総論

【総括判断】「県内経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、
 厳しい状況にあるものの、一部に持ち直しの動きがみられる」









項目	前回（2年7月判断）	今回（2年10月判断）	前回比較
総括判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるものの、足下では下げ止まりの動きがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるものの、一部に持ち直しの動きがみられる	

（注）2年10月判断は、前回7月判断以降、10月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつある。生産活動は、感染症の影響がみられるものの、一部に持ち直しの動きがみられる。雇用情勢は、感染症の影響により、弱含んでいる。

【各項目の判断】

項目	前回（2年7月判断）	今回（2年10月判断）	前回比較
個人消費	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、足下では緩やかに持ち直しつつある	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつある	
生産活動	新型コロナウイルス感染症の影響により、弱含んでいる	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、一部に持ち直しの動きがみられる	
雇用情勢	新型コロナウイルス感染症の影響により、弱含んでいる	新型コロナウイルス感染症の影響により、弱含んでいる	
設備投資	2年度は増加見込みとなっている	2年度は増加見込みとなっている	
企業収益	2年度は増益見込みとなっている	2年度は増益見込みとなっている	
企業の景況感	「下降」超幅が拡大している	「下降」超幅が縮小している	
住宅建設	前年を下回っている	前年を下回っている	
公共事業	前年を上回っている	前年を上回っている	

【先行き】

先行きについては、感染拡大の防止策を講じつつ、社会経済活動のレベルを引き上げていくなかで、各種政策の効果もあって、持ち直しの動きが続くことが期待される。ただし、感染症が地域経済に与える影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつある」

百貨店・スーパー販売額、家電販売額、ドラッグストア販売額及びホームセンター販売額は前年を上回っているものの、コンビニエンスストア販売額は前年を下回っている。また、乗用車の新車登録届出台数は、普通車、小型車、軽乗用車いずれも前年を下回っている。宿泊や飲食サービスは一部に持ち直しの動

きがみられるものの、弱い動きとなっている。このように個人消費は、感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 感染症の第2波により感染者が増えてきたことで、巣ごもり消費が再び増加し、パスタやホットケーキミックスなどの家庭内での調理向け食材が好調となり、売上は前年同月と比べて増加した。(百貨店・スーパー)
- 外出自粛やテレワークにより、自宅で快適に過ごすためにパソコンや身の回りの家電製品を充実化している傾向がみられる。白物家電は買替えて好調であった半面、今後の需要減が懸念される。(家電量販店)
- 外出自粛で庭の手入れやDIYなどの需要が増加し、売上は好調であったが、感染症の第2波が落ち着き始め、徐々に外出する人が増えたことで、今後の反動減が懸念される。(ホームセンター)
- 7月下旬から徐々にビジネス客が動き始めたものの、感染リスク軽減などのため、出張利用者は以前より減少傾向にあり、滞在期間も短い。他方、家族客の動きは9月の4連休から活発化している。(宿泊)
- ビジネス客を対象とした駅前店舗の売上の戻りは悪いが、家族連れや個人をターゲットにした郊外型の店舗で昼間需要が好調である。(飲食サービス)

■ **生産活動 「新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、一部に持ち直しの動きがみられる」**
生産を業種別にみると、食料品などは減少しているものの、化学、汎用・業務用機械などが増加しており、感染症の影響がみられるものの、一部に持ち直しの動きがみられる。

- 国内需要が縮小したものの、感染症の影響で輸入制限をしていた海外取引先で徐々に輸入が再開され、需要が拡大したことから、生産に影響はなかった。(化学)
- 感染症の影響で需要の減少や海外からの部品調達の影響が懸念されたものの、足下の生産量は前年と変動はない。(汎用機械)
- 家庭内消費に対応した容量の大きいペットボトル製品の需要は高いが、テレワークなどによりオフィスの自動販売機の売上の減少が生産に影響している。(食料品)

■ **雇用情勢 「新型コロナウイルス感染症の影響により、弱含んでいる」**

有効求人倍率は低下し、新規求人数も減少傾向にあるなど、感染症の影響により、雇用情勢は弱含んでいる。

- 県内では特に比重が大きい製造業や、医療・福祉の求人が大幅に減っているため、県内全体の求人数が減少している。(行政機関)
- 感染症の影響による雇用情勢の悪化で、転職による離職者は少なくなっている。(小売業(ドラッグストア・自動車販売)・製造業(食料品))

■ **設備投資 「2年度は増加見込みとなっている」** (全規模・全産業) 「法人企業景気予測調査」2年7-9月期

○ 2年度の設備投資計画は、製造業では前年比19.6%の増加見込み、非製造業では同19.2%の増加見込みとなっており、全産業では同19.4%の増加見込みとなっている。

■ **企業収益 「2年度は増益見込みとなっている」** (全規模) 「法人企業景気予測調査」2年7-9月期

○ 2年度の経常利益(除く「電気・ガス・水道業」、「金融業、保険業」)は、製造業では前年比77.5%の増益見込み、非製造業では同9.0%の減益見込みとなっており、全体では同3.5%の増益見込みとなっている。

■ **企業の景況感 「『下降』超幅が縮小している」** (全規模・全産業) 「法人企業景気予測調査」2年7-9月期

○ 企業の景況判断BSIは、前四半期(2年4~6月期)に比べ、「下降」超幅が縮小している。先行きについては、「下降」超で推移する見通しとなっている。

■ **住宅建設 「前年を下回っている」**

○ 新設住宅着工戸数でみると、持家、貸家、分譲住宅いずれも前年を下回っており、全体として前年を下回っている。

- 住宅展示場の来場者数や受注状況も回復傾向にある。なお、非対面でのオンライン接客などが本格化していく。(住宅建設)
- 感染症の第2波により7月には客足が減ったものの、8月から9月はその反動で住宅販売契約額は伸長している。(住宅建設)

■ **公共事業 「前年を上回っている」**

○ 前払金保証請負金額をみると、前年を上回っている。